

平成22年度当初予算

主 要 事 業

福 井 県 教 育 委 員 会

～ 事業内容の見方について ～

1. 事業名称の先頭に

「」とあるのは、22年度当初予算の新規事業です。

「」とあるのは、22年度当初予算において事業内容の拡充を行った事業です。

2. 予算額の欄に

「雇用基金事業」とあるのは、緊急雇用創出事業臨時特例基金または、ふるさと雇用再生特別基金を活用して実施する事業です。

I

経済・雇用対策

予 算 額
(単位：千円)

1 雇用対策

◇学生の就職支援の強化

- ㊦ 県立高校生就職緊急支援事業（教育庁高校教育課） 4,670
教員の企業訪問などによる求人確保やインターンシップの充実、就職支援コーディネーターの増員配置（19名→38名）などにより、県立高校生の就職を支援します。 雇用基金事業 (87,431)
- 事業内容 県立高校（25校）における就職支援コーディネーターの配置
求人確保や内定取消し防止に対する企業への要請
インターンシップの実施
㊦未内定のまま卒業した生徒に対するきめ細かな就職相談

2 県民生活の安心確保

◇セーフティネットの充実

- 福井県奨学育英資金貸付事業（教育庁高校教育課） 21,123
生活困窮世帯の高校生等に奨学金を貸与し、通学費や学用品、修学旅行積立金などの学納金に対する経済的負担の軽減を図ります。
- 事業内容 経済的理由により修学困難な高校生等に対し奨学金（月額18,000円～35,000円、学校卒業後20年以内に返還）を貸与
（奨学金貸付190,020千円のうち、20年度の貸付実績を超える分について基金を充当）
- 財 源 高校生修学支援基金

◇安全・安心

施設等の耐震化促進事業

福井県建築物耐震改修促進計画に基づき、学校や福祉施設、民間木造住宅等の耐震化を促進します。

- ① 県立学校の耐震化（教育庁学校教育振興課） 1,641,708
耐震補強計画・実施設計策定等（7棟（奥越総合産業高校（仮称）2棟分は別掲）
耐震補強等（9棟（奥越総合産業高校（仮称）1棟分は別掲）
耐震化率 21年度末81.4% → 22年度末84.3%
財 源 電源交付金

② 公立小・中学校の耐震化（教育庁学校教育振興課）

106,036

耐震補強工事（21棟）

補助率 Is値0.3未満（倒壊の危険性の高い施設）

県1/20（国2/3）

Is値0.3以上（倒壊の危険性のある施設）

財政力指数0.5未満の市町 県1/10（国1/2）

財政力指数1.0未満の市町 県1/15（国1/2）

耐震化率 21年度末75.5% → 22年度末78.9%

Ⅱ

新たな計画(子育て・文化・水産業・林業)の実行

予 算 額
(単位：千円)

1 元気な子ども・子育て応援計画の推進

◇「元気で力強い子どもの育ち応援」プロジェクト

(※うち教育庁所管分 396,229)

- ㊦ 放課後子どもクラブ応援事業(部局連携：教育庁義務教育課、健康福祉部子ども家庭課) 430,372

「放課後子どもクラブ」への小学4年生以上の児童の受け入れを拡大するため、運営および施設整備に対する助成制度を拡充し、放課後児童クラブと放課後子ども教室との一体的な運営を進めることにより、子どもが安心して放課後を過ごすことのできる環境を整備します。

	支援対象	通常の支援措置	小学4年生以上児童を受け入れた場合の拡充措置	
ソフト支援	クラブの運営経費への支援	県1/3 国1/3 市町1/3	【今回拡充】 1人当たり7.5千円(1/6相当)を追加支援 ※留守家庭以外の児童を受け入れた場合も含む	
ハード支援	新設	児童館活用型	県1/3 国1/3 市町1/3	【今回拡充】 県1/2 国1/3 市町1/6
		空き教室活用型	県1/3 国1/3 市町1/3	県2/3 国1/3 市町0
	拡張	児童館活用型	県1/3 国1/3 市町1/3	県1/2 国1/3 市町1/6
		空き教室活用型	補助なし (市町10/10)	【今回拡充】 県1/2 市町1/2

※この他、ミニ児童クラブについて運営費の補助単価をアップ

2 教育・文化ふくい創造会議(第三次)の提言に基づく施策の推進

◇身近に文化を感じる環境をつくる

㊦ ふくい県民総合文化祭開催事業（教育庁文化課） 25,729

活動者に日頃の成果を発表する機会を提供するとともに、体験を重視した活動の推進や若者が文化に親しめる企画を新たに実施することにより、県民の文化への関心を高めます。

事業内容 体験を重視したふれあいフェスティバルの開催

㊦ふくい子ども文化祭にあわせて親子を対象に文化体験教室を実施

㊦若者の文化への関心を高める企画を公募し実施

◇子どもたちの文化の素地を培う

㊦ 文化教育推進事業（教育庁文化課） 910

文化施設における授業や学芸員による学校への出前セミナーを実施し、児童・生徒が福井の文化を体験しながら学ぶことができる文化教育を進めます。

事業内容 教育現場での文化に関する需要調査、先進事例の研究

座学と体験を組み合わせた文化教育プログラム、教材の開発

㊦ ふれあい文化子どもスクール開催事業（教育庁文化課） 31,422

県内の小学5年生（約8千人）を対象に、本格的な参加体験型コンサートと併せて県立文化施設での体験授業を行うことにより、子どもたちの感性や豊かな心を醸成し、福井の文化やふるさとの関心・理解を促します。

事業内容 オーケストラとのふれあいコンサート

開催場所 県立音楽堂

出演者 プロオーケストラ、本県出身若手演奏家等

文化施設での体験授業

対象施設 美術館、歴史博物館、こども歴史文化館、恐竜博物館等

◇地域固有の文化資源を生かしてまちづくりを進める

㊦ 歴史・文化のまちづくり事業（教育庁文化課） 46,894

地域の中核的な文化財の整備を集中的に進めることにより、地域の文化遺産を活かした個性的で魅力あるまちづくりを支援し、観光をはじめとした人々の交流促進を図ります。

整備文化財 一乗谷朝倉氏遺跡（史跡等保存修理）

白山平泉寺旧境内（史跡等総合整備活用推進）

明通寺本堂・三重塔（建造物保存修理）

小浜市小浜西組（重要伝統的建造物群保存地区整備）

若狭町熊川宿（重要伝統的建造物群保存地区整備）

◇文化の力で産業力を強化する

㊦ 越前焼発掘調査事業（教育庁文化課） 708

越前焼の文化財指定を目指して、越前焼の分布状況、生産体制、流通状況など産地の歴史的な価値を明らかにし、地域の活性化や観光誘客等につなげます。

事業内容 未発掘の窯跡調査（分布調査、試掘調査、遺物収集等）

財源 県1/2 国1/2

◇文化の創り手・演じ手を育てる、地域の文化活動を応援する

- ⑧ 芸術文化活動推進事業（教育庁文化課） 19,926
- 先進的・創造的な芸術文化活動や地域独自の文化を保存・活用する活動を支援し、文化団体や担い手の育成と活動のさらなる広がりを進めます。
- 拡充内容 地域の特色ある文化を生かしたまちづくりの支援
- ⑨子どもたちによる伝統文化の継承、保存等の活動支援
 - ⑩NPO法人等が地域で行う芸術文化事業の支援

◇「文字の国 福井」を発信する、全国に誇るべき先人に学ぶ

- ⑧ 白川静博士生誕百年記念事業（教育庁生涯学習課、義務教育課） 4,923
- 中国古代文化や漢字研究の分野で偉大な功績を残された白川静博士の生誕百年を記念して、博士の偉業を改めて顕彰するとともに、立命館大学や県外の自治体と連携して漢字をテーマにしたシンポジウムを開催し、白川文字学のふるさと福井を全国に発信します。
- 事業内容 生誕百年記念フォーラムの開催（4月）
- パネル展の開催（立命館大学、東京外語大学との連携・共催）
（7～8月）
- シンポジウム、白川文字学の公開授業（7月頃）

- 「白川文字学」活用推進事業（教育庁生涯学習課、義務教育課） 12,046
- 白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を県内全小学校で行うとともに、子どもから大人まで楽しく学べる漢字教室を開催するなど、白川文字学のさらなる普及を図ります。
- 事業内容 漢字教室、漢字指導者養成講座等の開催
- 白川文字学の室（県立図書館内）の充実
- 漢字解説本の改訂（4,000千円の販売収入見込）
- 副読本の作成

3 ふくいの魚・元気な販売戦略の推進

◇地魚腹いっぱいプロジェクト

（※うち教育庁所管分 0）

- ⑧ 学校給食における地場産水産物の普及推進事業 6,494
- （部局連携：農林水産部水産課、教育庁スポーツ保健課）
- 学校給食への地場産水産物のメニュー回数を増加するとともに、本県の特産水産物である「せいこがに」を提供するなど、県産の魚への関心を高め、魚離れの抑制と魚食回帰を目指します。
- 事業内容 県漁連と連携した学校給食への地場産水産物の提供（年4回）
- 中学校3年生に対する「せいこがに」の提供と食べ方の講習（年1回）
- 事業期間 22～26年度

Ⅲ

福井新元気宣言の実現

予 算 額
(単位：千円)

1 元 気 な 社 会

(1) 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

◇教育力の向上と文化の創造

- ⑧ 福井県教育振興基本計画策定事業（教育庁教育政策課） 2,770
 教育・文化ふくい創造会議などの提言を取り入れ、今後進めるべき本県の教育施策の体系を明らかにするため、教育振興基本計画を策定します。
 計画期間 23～27年度

◇「ていねいな教育」と「きたえる教育」

- 元気福井っ子新笑顔プラン事業（教育庁学校教育振興課、義務教育課） 3,483,693
 小・中学校における県独自の少人数学級編制基準等を定めた「新笑顔プラン」を引き続き実行し、全国トップレベルのきめ細かな教育を行う体制を整備して、子どもたちの学力のさらなる向上を図ります。
 学級編制基準の見直し
⑨ 中学校2・3年を33人以下学級編制に見直し

< 23年度までの新笑顔プランの目標 >

	学年	学級編制基準				学年	学級編制基準		
		19年度	22年度	23年度			19年度	22年度	23年度
小 学 校	1・2年	40人	40人	40人	中 学 校	1年	30人	30人	30人
	3・4年	40人	40人	40人		2・3年	36人	33人	32人
	5年	40人	36人	36人					
	6年	36人	36人	36人					

- ⑩ 全国学力・学習状況調査活用事業（教育庁義務教育課） 8,957
 22年度より抽出方式で実施される全国学力・学習状況調査について、抽出から外れた学校についてもこれまで通り該当学年の全員を対象に実施し、県において採点、集計を行います。
 事業内容 抽出対象外の学校も含めた全国学力・学習状況調査の実施
 (小学6年と中学3年の全員が対象)
 対象者の採点、集計作業の実施

<p>④ 元気ふくいっ子学力向上推進事業（教育庁義務教育課、学校教育振興課）</p> <p>子どもたちの応用する力を伸ばすため、県独自の学力テストを実施します。また、授業名人など学校の中核となる教員の公開授業などを通して、若手教員の指導能力を高めます。</p> <p>事業内容 ④県学力調査の実施 （小学5年と中学2年の全員が対象、県独自の応用問題を作成） ④授業名人や中核教員による公開授業等の実施（全研究指定校28校） ④授業名人の優れた授業等をCATV等を通じて放映 教育関連図書への掲載による福井の教育の発信</p>	<p>12,670</p>
<p>④ 高校生学力向上事業（教育庁高校教育課）</p> <p>授業名人等による公開授業や学力分析に基づく教員研修、生徒の弱点を解消するための問題集の作成などにより、教員の指導力向上を図るとともに、県立高校30校がそれぞれの実態に応じて独自に企画する学力向上事業を行います。</p> <p>事業内容 学力分析、教材の開発および指導方法の改善 公開授業や教員研修などによる指導力強化 ④各県立高校の学力向上事業の実施 （弱点克服特別プログラム、基礎学力養成講座、企業や地域等との連携）</p>	<p>23,058</p>
<p>④ 高校生の英語コミュニケーション能力向上事業（教育庁高校教育課）</p> <p>夏季休業期間中にALT（外国語指導助手）を招き英語キャンプを実施するとともに、英語教員の指導力の向上や授業等の改善を行うことにより、高校生の英語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>事業内容 高校生英語キャンプの実施 授業におけるNHK教材の活用 英語教員集中セミナーの実施 福井県版英語指導力向上プログラムの実施</p>	<p>2,132</p>
<p>外国語指導助手配置事業（教育庁高校教育課、義務教育課）</p> <p>ALT（外国語指導助手）を配置し、中学生・高校生に生きた外国語に接する機会を提供することにより、国際社会の中で活躍できる人材を育成します。</p> <p>配置人数 英語指導助手82名（高校34名、中学校47名、県教育委員会1名） 中国語指導助手1名（足羽高校に配置）</p>	<p>435,524</p>
<p>わくわく理科授業応援事業（教育庁義務教育課）</p> <p>小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」を配置し、分かりやすい理科授業を広く展開します。</p> <p>財 源 （独）科学技術振興機構からの受託</p>	<p>23,047</p>
<p>「ふくいサイエンス寺子屋」開催事業（教育庁義務教育課）</p> <p>放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、「ふくいサイエンス寺子屋」として科学実験等を行い、理科や算数、数学に対する興味、関心を高めます。</p> <p>事業内容 公民館や児童館などへの講師派遣 企業やNPO法人などが行う科学実験等に対する支援</p> <p>財 源 電源交付金</p>	<p>4,530</p>

<p>スーパーサイエンスフォーラム開催事業（教育庁高校教育課）</p> <p>高校生を対象に、世界の最先端科学技術に触れ学ぶ機会を設けることにより、科学技術、理科、数学に対する興味、関心を高め、知的探究心を育てます。</p> <p>事業内容 著名な研究者による講演と実験の実施</p> <p>開催予定月 22年8月</p>	2,081
<p>「白川文字学」活用推進事業（教育庁生涯学習課、義務教育課） 再掲</p>	(12,046)
<p>⑧ 奥越総合産業高校（仮称）環境整備事業（教育庁学校教育振興課）</p> <p>23年度開校の奥越総合産業高校（仮称）の施設・設備の整備を行います。</p> <p>事業内容 機械科棟の改築、耐震化（189,463千円） 家庭科実習室の整備等（70,239千円）</p> <p>財 源 電源交付金</p>	259,702
<p>⑨ 国民読書年（2010年）記念事業（教育庁生涯学習課）</p> <p>国民読書年をアピールするための原画展や講演会を開催し、県民の読書に対する意識を高めます。</p> <p>事業内容 こどもの読書週間に合わせた原画展の開催 著名作家による講演会の開催 校外学習および調べ学習における図書館施設の開放 県内市町図書館との連携による読書推進キャンペーンの実施 子ども室（県立図書館内）における「読書ノート」の配布</p>	1,798 雇用基金事業 (1,413)
<p>⑩ 青少年教育施設整備基本調査事業（教育庁生涯学習課）</p> <p>多様な地域資源や関連する施設を活用した新しいスタイルの体験学習を提供するため、青少年教育施設の整備に向けた基本調査を実施し、必要な施設のあり方を検討します。</p> <p>事業内容 検討委員会の設置 先進地視察の実施</p>	2,127
<p>⑪ 不登校対策事業</p> <p>不登校の未然防止や不登校児童生徒の早期学校復帰、高校中退者等の高校卒業資格の取得支援など、きめ細かな対策を実施します。</p>	
<p>⑫ みんなが元気ふくいっ子事業（教育庁義務教育課）</p> <p>不登校の未然防止を重点とした対策指針を策定するとともに、子どもたちの登校渋りや遅れがちな学習をサポートする登校支援員を配置します。</p> <p>事業内容 県独自の基準（年15日以上欠席）による不登校調査の実施 登校支援員の配置 22名（緊急雇用基金） 教員の資質・能力向上研修会の実施 不登校の要因等に関する調査の実施（国10／10）</p>	1,450 雇用基金事業 (41,250)

<p>㊦ スクールカウンセラー配置事業（教育庁高校教育課、義務教育課）</p> <p>スクールカウンセラーを、既に配置している全中学校、一部小学校に加え、新たに全 定時制高校に配置し、児童・生徒の心の悩み相談への対応を充実します。</p> <p>配置校 ㊦定時制高校（全校配置7校） 中学校（全校配置74校） 小学校（21校） ※全日制高校については、専任教員を配置済</p> <p>財 源 県2／3 国1／3</p>	<p>89,859</p>
<p>㊦ スクールソーシャルワーカー配置事業（教育庁高校教育課、義務教育課）</p> <p>社会福祉士などをスクールソーシャルワーカーとして、新たに全定時制高校に配置 し、児童・生徒の家庭環境への働きかけを行い、不登校等の課題の解決を図ります。</p> <p>配置場所 ㊦定時制高校（全校配置7校） 小中学校（9市） ※全日制高校については、専任教員を配置済</p> <p>財 源 県2／3 国1／3</p>	<p>10,298</p>
<p>㊦ フリースクール支援事業（教育庁教育政策課）</p> <p>高卒資格取得が可能なフリースクールを支援し、高校中退者等の自立促進を図りま す。</p> <p>実施主体 NPO法人等 支援期間 3年を限度 補助対象 フリースクールの運営に関し新たに発生する以下の経費 ・スクールカウンセラー等の配置に要する経費 ・野外活動や体験学習、実習等の実施に係る経費 など 補助限度額 100万円</p>	<p>1,000</p>

◇いつでも身近に福井の文化

〔 ※ 教育・文化ふくい創造会議（第三次）の提言に基づく主な施策は、
「Ⅱ 新たな計画（文化）の実行」で記載 〕

◇「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の
応援

⑧ スポーツふくいの推進（教育庁スポーツ保健課）

平成30年の第73回国民体育大会および第18回全国障害者スポーツ大会の誘致・開催に向け、新たな基金の創設、国体準備委員会の設置および競技力向上対策の拡充等を行います。

⑨ スポーツふくい基金の設置

5,000,000

生涯スポーツの応援と世界に通じる優秀な選手の育成を目的とし、また、第73回国民体育大会および第18回全国障害者スポーツ大会の円滑な運営に活用するために、スポーツふくい基金を新たに創設します。

事業内容 [基金を取り崩して実施]

国体に向けた競技力の向上、国体運営準備経費などに充当

[旧スポーツ振興基金3.5億円の運用益を活用]

生涯スポーツの振興事業などに充当

基金総額 53.5億円

(電気事業売却益50億円、旧スポーツ振興基金3.5億円)

⑩ 競技力向上対策事業

200,000

国民体育大会や各種スポーツ大会に向けて、計画的に選手強化対策等を実施し、ジュニア層から指導者までを育成します。

拡充内容 ⑧ 小学生に対するスポーツ体験教室の実施（ジュニア競技種目）

⑨ 選手強化・育成に関わる指導者の育成（公認資格取得支援等）

⑩ 育成強化が必要な競技種目の選手強化

財 源 スポーツふくい基金

⑪ 国体開催準備事業

7,970

国体準備委員会を設置し、平成30年の第73回国民体育大会の誘致・開催に向けた準備・検討を進めます。

財 源 スポーツふくい基金

⑫ 生涯スポーツ普及促進支援事業

1,000

生涯スポーツの普及拡大を図るため、スポーツ体験教室の開催や実技講習会等の活動を支援します。

事業内容 競技人口拡大に向けた活動を行う競技団体への支援（10グループ）

補助率 1団体あたり上限10万円

財 源 スポーツふくい基金

（2）日本一の安全・安心（治安回復から治安向上へ）

◇「福井治安向上プラン」の実行

(※うち教育庁所管分 0)
435

⑬ 子ども・女性安全安心対策事業（部局連携：警察本部、教育庁スポーツ保健課）

子どもに対するいたづらや声かけ、女性に対するストーカーや性犯罪を防ぐため、地域と連携し、安全対策を強化します。 雇用基金事業 (42,362)

事業内容 子ども・女性のセーフティゾーン形成（緊急雇用基金）

光と音のパトロール実施（5地区から21地区に拡大）

⑭全中学校の自動車（青色灯）によるパトロール実施

ストーカーや犯罪被害者への安全対策